

— 編集後記 —

最近の厚労省の統計で、セックスレスの夫婦が増加し、性への関心がない若い男性が二年前の二倍、十代後半で35%を超え二十代前半で20%という報告があるとのこと。近代に入って過剰に意味化されてきた性をめぐる風景もいよいよ変化してきたということだ。悪くないのではないかと感じる。欲望のあり方が変わることで、性と暴力が切り離されるよう祈る。(Y.I.)

『女性学評論』の編集にはじめて参加させていただきました。私は現在、女性学（理論編）の授業を担当させていただいているのですが、なかなか「ジェンダー」の問題に関しては、自分流の理解と自分流の視点でぼんやりとしたものでしかなかったように思います。授業のお手伝いはさせていただいてきましたが、スポーツとジェンダーという視点も学ばねばと痛感しています。これを気にジェンダースタディーズの世界をゆっくりですが学ばせていただきたいと思っています。(N.I.)

9月は海外調査、12月は病欠で編集委員会に出席できず申し訳なく思っております。ただ、神戸女学院大学に女性学インスティテュートがあることの意義や重要性が、ようやく頭だけでなく体で、自分の研究との関わりで実感を持って分かるようになってきましたので、今後ともせめて一生懸命書かせて頂こうと思います。(M.T.)

今年度は女性学インスティテュート設立25周年でした。そこで、「ジェンダー平等への課題」と題して記念特別講演会を開催しました。また、『女性学評論』でも、記念特別講演会のテーマで特集を組むこととなりました。多くの投稿があり、うれしく思っています。これからも、女性学インスティテュートの発展に少しでも寄与できればと思っています。(M.Y.)

.....